

大阪市立大学 第23回人権週間特別講演会

原子力の歴史を振り返りながら原発の今を考える —放射線・放射能の発見から福島原発事故の後始末まで

日本の原子力発電は1960年代、「将来の夢のエネルギー源」、「どんなことが起きても安全な原発」というキャッチフレーズとともに始まった。しかし、その実情は、国と電力会社が一体となって、建設に反対する住民の運動を金と力で押しつぶしながら、危ないので都会に作れない原発を田舎に押しつけるプロセスだった。原子力開発のたどり着いた先が2011年の福島原発事故だったことを若い方々に知って頂きたい。

日 時：令和3年12月10日（金）10：50～12：30

参加方法：オンライン参加 (Zoom)

会場参加 (会場：大阪市立大学 学術情報総合センター10階 大会議室)

※会場参加は指定科目の受講者のみとなります

今中哲二 氏 (京都大学複合原子力科学研究所・研究員、専門：原子力工学)

●● 講師プロフィール ●●

大学院時代より日本の原子力開発の在り方に疑問をもちはじめ、研究者としては、原子力を進めるためではなく原子力利用にともなうデメリットを明らかにするための研究に従事。広島・長崎原爆による放射線量の評価、チェルノブイリ原発事故影響の解明、福島原発事故による放射能汚染調査と周辺住民の被曝量評価などを行っている。

1950年広島市生まれ。1973年大阪大学工学部原子力工学科卒業、1976年東京工業大学大学院修士課程修了後より京都大学原子炉実験所助手。2016年の定年後は非常勤研究員。



【申込方法】

〈Zoom参加の場合〉

- ・下記QRコードからお申込みください。お申込み時に記載いただいたメールアドレス宛てに、オンライン参加用のURL等をご連絡します。
※授業振替の学生の方はQRコードを利用せず、担当教員の指示に従ってください。

〈会場参加の場合〉※「平和と人権」受講者のみ

- ・申込不要（当日、会場まで直接お越しください。）

【参加費】無料【定員】オンライン300名、会場「平和と人権」受講者のみ

【申込締切】令和3年12月3日（金）

【注意事項】

- ・オンラインでの参加（視聴）は必ず事前にお申し込みください。
なお、参加には パソコン、スマートフォンなどの端末およびインターネット環境が必要です。
- ・視聴にかかる通信費等は、視聴する方のご負担となります。



主催：大阪市立大学 人権問題委員会



大阪市立大学
OSAKA CITY UNIVERSITY